

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールや詰所に理念を掲示し、いつでも見られる環境を作ることで、共有している。毎週のカンファレンスの際には、理念の唱和も行っている。	ホール内に理念を掲示し、毎週、カンファレンスを行う前に唱和している。また、理念である「普通の生活」に近づけられる様、職員全員で力を合わせて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には、出来るだけ参加している。運営推進会議には、町内会長様や民生委員様、愛育委員様、広報担当者様、地域包括支援センター職員にも声掛けし、参加をお願いしている。今年9月からは、平井保育園との交流も始めている。	町内行事に積極的に参加すると共に、地域に向けての広報活動も積極的に行っている。また、地域の一員となれるよう、町内のホームページに施設の活動状況等を記載するなど、地域と積極的に関わりを持つよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の、町内での交流により、認知症についての多少の理解はして頂けたのではないかと思われる。町内の清掃活動に参加したり、個別にも施設周辺の清掃活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況や、サービス状況の報告は、毎回行っている。町内の方との、意見交換の場になっている。電子町内会のHPに、施設の情報も7月より毎月掲載して頂いている。	2か月に1回、町内会長を始め、広報担当者を通して、近隣のグループホームや地域包括支援センターの方々も参加して、サービス向上について話し合いが持たれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の待機状況は、毎月岡山市介護保険課へFAXしている。ふれあいセンターとの情報交換も行っている。	運営推進会議等を通じて、地域包括支援センターの職員と情報交換しながら、日常的に協力関係が築けるよう努めている。	地域包括の職員と同様に、行政(市)との関係を能動的に図り、更なるサービスの質の向上に向けて努めて頂きたいと思えます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、それ以外の身体拘束は行っていない。現在、玄関の施錠の開錠を、1日3時間行っている。今後も様子を見ながら、開錠時間の延長を検討している。	家族や友達が来訪しやすいように、外玄関は開放している。しかし、居住スペースへの出入り口は転倒防止対策の為、施錠している。ホーム全体で身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、社内研修で学ぶ機会を設けている。カンファレンスでの注意も促し、事業所内では、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、社内・社外研修などで学ぶ機会を設けている。入居の際に必要な関係者と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際は、毎回質問の有無など確認している。契約書の難しい文面は、わかりやすい言葉で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でのご意見や、ご意見・ご要望カードの活用など、意見を聞く機会を設け、カンファレンス等で話し合い、反映させるようにしている。契約時には、施設以外の窓口もご説明している。	入口に「ご意見箱」を設置しているが、投函はほとんどない。その為、ご家族に直接、要望カードを手渡して意見を記入して貰ったり、利用者や家族との会話から、改善点や要望等を聞き出したりしている。意見や要望等はカンファレンスで取り上げ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや、個人面談、その他、職員からの意見を聴取する機会があり、検討している。	法人内で、職員の悩みや疑問を解決できるよう「なんでもコール」を設置しており、職員が直接、意見が言えるような体制が整えられている。また、問題解決や提案を聞く機会として、個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度は昇給の機会があり、業務態度や、テスト結果、資格修得など考慮し、向上心ややりがいを育てよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの性格や、力量、向上心など考慮し、研修の案内や、面談など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くにGHがあり、お互いの施設での催しにお誘いしたり、参加したりと交流の機会を設けている。9月からは、平井保育園に毎月訪問し、一緒に楽しむ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ご本人様の困っている事等お伺いし、ケアプランに反映している。ご家族様に以前の生活スタイルや、性格などお聞きし、本人様の言葉を聞きながら、安心して頂けるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みの時から、ご家族様が何にお困りで、どういう援助を望んでおられるかはお伺いし、ご要望はケアプランに反映させています。連絡を密にとり、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを立てる際には、ご本人様、ご家族様の要望をお伺いし、必要な援助を考え、入居前の生活に近づけるよう、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様は、家族のような存在でありたいと思っています。出来るだけ入居者様と一緒に、色々な事を行うように、お手伝いをして頂けるように援助している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、ご本人様の状況を共有しつつ、気軽になんでも話の出来る関係を作るよう努めている。ご家族様と入居者様の絆を大切に、ご家族様にも協力を仰ぎながら、入居者様の援助を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人にも来訪をお願いし、来訪時には温かくお迎えするよう心掛け、なじみの関係が途切れないように努めている。自宅周辺にお連れしたり、お墓参りの援助などにも努めている。	ご家族の協力により、入所前からのかかりつけ医へ受診したり、近所に住んでいた友人などが来訪したりしている。また、来訪しやすい環境作りに努め、関係継続が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様同士は、近い席にしたり、あまり仲の良くない利用者様同士の間には職員が入ったりと、人間関係の把握を行い、孤立したり、嫌な思いをされないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの利用者様は、死亡退去が多かったので、あまりフォローは出来ていない。相談や支援の準備はあるので、こちらから、もっとアクションを起こした方がいいのかもしれませんが、現在は出来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	皆様には、穏やかに、楽しい生活をして頂きたいと思っています。ご家族様のご要望や、ご本人様の表情を見ながら、満足して頂けているかどうか、検討しながら援助を行っている。	日常生活の中でのサイン(小さな仕草や表情等)を見逃さないようにしている。また、利用者本人の好きな事を生活の中に取り入れながら、思いや意向を見つけ出すよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、生活歴や、サービスの利用状況、生活習慣等お伺いし、出来るだけ以前の生活が把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や日常生活の中での観察、一日の過ごし方等表情や言動からも把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週カンファレンスで話し合い、毎月ケアプランの更新や、必要時毎に援助内容も更新している。ただ、ご家族様からの意見は少ない。	毎月、軽度の変化も見失うことなく、ケアプランを作成している。また、モニタリングで確認しながら、利用者の生活に沿ったプランを計画している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は介護記録や、日報なども活用して、情報の共有をしている。それらを元に、カンファレンス等で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況に応じ、サービスの内容は違っている。その時々にあったサービス内容に変更し、外部からの援助も受けながら、色々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の協力を得ることはあるが、その他の資源はあまり生かせていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は確保しており、入居の際に、施設のかかりつけ医か、もともとご本人様がかかっていたかかりつけ医かなど、ご希望に沿って選択して頂いている。施設のかかりつけ医とは、密に情報交換をし、月2回の訪問診療をお願いしている。	提携病院からの往診の他、個々の希望に応じて、かかりつけ医への受診支援が行なわれている。また、往診時には2週間分の生活情報等を提携医に説明している。緊急時の連絡・対応も確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の一人は看護師で、いつでも相談が出来る状態であり、適切な医療や看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の際は、早く退院できるように、医療機関との情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様に説明は、なかなか難しいものがありますが、ご家族様、医療機関、職員間では話し合いを行い、方針を共有している。ただ、地域との関係は築けていない。	重度化しないよう、日々のケアにおいて体調管理を入念に行っている。また、終末期に向けての勉強会や研修、ミーティングを行い、職員間で共有している。ご家族の希望(看取り等)があれば、ご家族や医療機関と連携して、行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルがあり、その時の状態によって対応するようになっている。研修も受けている。事故発生に関しても、職員全員が研修を受けており、どのような状態の時に、何をするのかを把握している。応急手当の訓練は、定期的には行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は、定期的に行っているが、それ以外の災害時の訓練は行っていない。現在は、地域との連携は取れていないが、今後話を進めていくよてい。	年に2回、昼夜間を想定した避難訓練を行っている。地域の協力体制は整っており、地域に向けての合同避難訓練の呼びかけも行っているが、実現には至っていない。	地域との協力体制は整えられているので、地域の人達を巻き込んだ、避難訓練の実施を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関しては、トイレのドアは閉める。居室での行為の際や、おしめ交換時はドアを閉めるなど、気をつけるようにしている。個人の人格を尊重した言葉かけを行うよう、気をつけている。	排泄時や入浴時は、個人の人格を尊重しながら対応している。また、利用者と会話する際は、誇りやプライドに留意しながら、丁寧な言葉使いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人に選択して頂く機会を設けたり、選択しやすい言葉かけを行い、表情や言動を見ながら、職員が入居者様のご希望をくみ取れるよう、努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴からケアプランを作成し、個人のペースを大切にしながら、その人らしい自分のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の価値を下げないよう、身だしなみには気をつけている。外出時にはお化粧品をして頂いたり、おしゃれをして頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、出来る方が少ないのですが、出来る方には、出来ることをお願いしている。お願いし、拒否があれば、強制することなく、本人様の意思でやって頂くようにしている。食事の席は、気の合う入居者同士にしたり、孤立しないよう職員が気をつけるようにし、音楽をかけて楽しい時間になるよう工夫している。	能力的に手伝える人は少なくなっていますが、配膳や後片付け等、できることを手伝ってもらっている。また、ソフト食を導入し、目で見て楽しむ事にもチャレンジしている。食事中はテレビを消し、会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、栄養士によって管理されている。水分は不足しないように摂取量を把握し、気をつけて補給するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、オシメは使用しないよう心掛けています。排泄パターンを把握し、トイレ誘導が出来るよう工夫している。	排泄時、羞恥心に配慮しながら、トイレ誘導や汚物処理を行い、排泄の失敗や失禁原因を追及している。また、本人の能力に合わせて、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて、予防方法を検討している。内服より前に、食べ物の工夫(ビフィズス菌や寒天、食物繊維)や、腹部マッサージなど行い、それでも便秘になる場合は、Drに相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自己決定の出来る方は、毎日入浴の希望をお伺いし、入浴して頂いている。体調や、体力などにより、時間や曜日を決めさせて頂いている方もいます。時間は、職員の多い時間帯になるので、日中にさせて頂いています。	個々の希望に応じて、毎日の入浴や夜間浴ができるよう体制が整えられている。また、入浴時、普段話さない方に対して、十分なコミュニケーションを図ることで、会話ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に居眠りをされていたり、疲労感が見える時などは、お部屋で横になって頂いたり、その時々合わせた対応をしている。夜間安眠できるよう、日中は出来るだけ起きて頂くようし、夜間眠れない時は、お話をしたり、ホットミルクをお出しするなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能、用法用量については理解している。服薬支援や、状態の観察にも務めている。新しい薬の処方があった場合や、薬の変更があった場合は、全員が把握し日々の観察を喚起に記録し、状態の把握が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族からの要望で、可能な支援をプランに組み込んでいる。個人に合った役割や、楽しみを取り入れるよう、日々の生活の中や、町内行事の参加やイベントへの参加等努力しているが、職員の数上なかなか出来ないこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	急な外出は、職員の数により、近隣なら可能な時もあるが、なかなか出かけられない。行事等で外出の機会を設けたり、個別でも家族の協力や、計画を立てているものであれば、援助できる。地域の人の協力は得られていない。	近隣への散歩や、近くの施設に行って交流を図っている。また、ご家族にも協力して貰いながら、買い物やお墓参り、お弁当持参の外出など、ご本人の希望に添った外出援助が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ事の大切さは理解しているが、ご家族様より、お金の所持を断られるケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望があれば、対応している。また、職員から入居者様へ働きかけることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を感じて頂けるよう、季節毎に草花を植えかえている。居間には、季節を感じられるような植物や造花等を飾ったり、入居者様の写真を飾ったり、出来るだけ自宅に近い状態になるように努めている。不快や、混乱を招くようなことのないように配慮している。	日中はできるだけ窓を開け、換気を行い、新鮮な空気を取り入れるようにしている。また、共用空間や玄関など、季節の花を飾り、季節感を出すと共に、異臭を感じさせないよう努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間での席は、気の合う入居者様同士が同じテーブルになるように配慮している。孤立しないよう、職員が気をつけるようにはしているが、その時々によって、お一人の方が良い時もあり、その時々で対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅で使われていたなじみの物を用意してもらったり、好きな物を持って来て頂くようにしている。居室の温度管理をし、過ごしやすい環境を作っている。	出来るだけ本人の使い慣れた家具や調度品を持参して貰っている。各居室に加湿器を設置しており、風邪予防に役立っている。ご希望により、ご家族が泊まる事も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーになっており、歩行しやすいような作りになっている。各居室は、出来るだけ自立した生活が送れるよう、家具などの配置に考慮し、動線の確保に努めている。トイレなど判りやすいよう目印を付けたりと工夫している。		